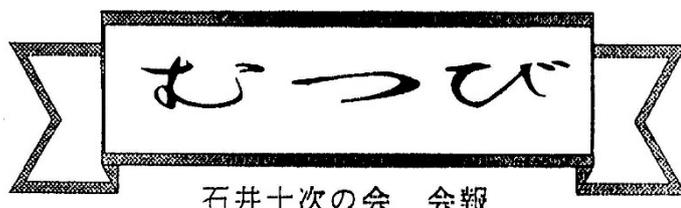


2022年  
(令和4年)  
6月10日



297号

## 「石井十次の会」活動と所感

石井十次の会

会長 橋田 和実

東ヨーロッパのウクライナではロシアによる侵略戦争が始まり、たくさんの市民が犠牲となり、人道的にも世界中から批判が高まっています。また、2年前から新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、人流や物流が止まり、経済の疲弊が深刻となっています。生活困窮者も次第に増加しています。

人類はこのような大規模な社会変化にどう対応し、どう乗り越えていくか、大きな試練を迎えています。このような時代には自然や感染症ウイルスと共生し、強く正しい精神力を養い、人間社会のあるべき姿を模索し、前へ進んでいかなければなりません。

児童福祉の父、石井十次は国家間の戦争や感染症が起きていたあの明治時代に、岡山で大勢の孤児を養育していましたが、都市化が進む岡山から大自然豊かな宮崎県茶臼原へと孤児院を移転しました。それには大変な苦勞と困難がありましたが、石井十次の思想と決意と信念によって成し遂げられました。

そして、現在、石井十次の精神をしっかりと受け継がれた4代目児嶋草次郎理事長による社会福祉法人『石井記念友愛社』が、県内各地で立派に事業を行っております。その後援会として「石井十次の会」があります。

さて、令和3年度の石井十次の会の活動はコロナ禍が続く中で、十分な活

動ができませんでしたが、概要をここに報告させていただきます。去る3月27日に代表役員会を行い、令和4年度の事業計画並びに収支予算（案）を審議していただきました。さらに、コロナ感染が厳しくなる中、4月23日の三役会にて、令和3年度の事業報告、収支決算について審議致しました。令和3年度は個人会員1,149名、企業団体会員77社の皆様が会費を納入していただきました。収入は6,316,644円、支出は4,925,708円となり、次年度に1,390,936円繰り越すことになりました。また、奨学金基金残高は10,401,141円で、石井十次の会積立残高は、1,800,014円となりました。これらは4月10日2名の監事により監査を受けております。なお、これらにつきましては、コロナ禍の為、代表役員による書面議決とさせていただきます。皆様方のご支援、ご協力により石井十次の会活動、収支状況、基金は良好に推移しております。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

そして、会員の皆様にもお骨折りいただき、『日本の福祉文化と子どもの未来を守るため』の署名活動を展開しましたが、ようやく昨年12月、児嶋理事長、卒園生たちと共に、佐藤厚労副大臣に直接、約6万人の署名簿を届けることができました。児童養護施設の重要性や必要性について訴えた結果、佐藤副大臣は十分理解され、我々の要望を聞き入れていただきました。

また、昨年から今年にかけて、石井十次の会の奨学金を受給し、大学等を卒業し、立派な社会人として、元気で活躍している友愛社の卒園生の姿を拝見することができました。この社会の中で自立し、世の為、人の為に役立とうと懸命に働く卒園生が多いことは頼もしい限りです。

これからも私たちは、石井十次の会の活動を通して、友愛社を支援し、子どもたちを育てていく一助となれば…と念ずる次第です。

— 石井十次を支えた先人たち (6) —

#### 4. 政一郎、再度高鍋町長となる

戦後、高鍋町の財政は極度に悪化した。昭和 24 年、町長の座についたばかりの宮越古寿<sup>みやごえふるとし</sup>は累積赤字を処理しかね、「この上は柿原先輩に頼る以外に道なし」と政一郎に町長引受けを懇請して辞任。政一郎は持ち前のボランティア精神から引き受けることにし、翌年 12 月の町長選に立候補し当選。驚いたことに町の金庫は空で、国民健康保険の医療費も支払不能であった。政一郎は金融機関の支援をあおぎ、経費を徹底的に節減して財政の立て直しをはかる。昭和 29 年の町長改選には再び立候補し、圧倒的人気で再選される。

#### 5. 図書館を町に寄附

政一郎は文教政策を重視し、財政困難の中ではあったが、昭和 25 年に図書館の建設を決断。元営林署の土地建物を図書館用地として町に譲り受ける。隣接地を政一郎が自費で買い増して町に寄附。昭和 29 年には正幸会が出資して図書館建設に着手。高鍋農学校にあった明倫堂書庫を解体し、土蔵造りの書庫を建設。そこに明倫堂にあった古文書類を収蔵。完工と同時に町に寄附した。



柿原政一郎記念高鍋図書館と政一郎の胸像

明倫堂書庫には約 16,000 冊におよぶ古文書が収蔵され、県内でも有数の歴史資料となった。政一郎は町長在任のまま宮崎大学に通って司書の資格を得て図書館長を兼務。正幸会は図書館建設に 116 万円を支出。政一郎は町長年俸 38 万円を寄付し図書を購入。令和 4 年 4 月、高鍋町は柿原政一郎を顕彰して、図書館を「柿原政一郎記念高鍋図書館」と命名した。

#### 6. 高鍋町営球場を建設

政一郎は戦後の混乱の中で青少年の健全な育成に心を砕いた。まだ貧しい町民の生活の中で、高校野球は町民が熱狂するスポーツだった。高鍋高校野球部を率いる平原美夫監督<sup>ひらばるよしお</sup>は、美術科の教師で優れた画家であったが、画業よりも野球に情熱を注いだ。政一郎は野球場を建設し、高鍋高校が自由に使えて町民も多く集まる場所にしたいと考え、町営球場建設を企画したが予算は全くなかった。政一郎は助役の尾崎一男<sup>おざきかずお</sup>と知恵を絞り、失業対策事業として人件費を獲得することを考えついた。尾崎は高鍋出身で建設省にいた若手官僚・上条勝久<sup>かみじょうかつひさ</sup>（のちに参議院議員）の協力を得て労働省と交渉。失業対策事業として人件費 600 万円を獲得。町からは事業費 300 万円を捻出して、合計 900 万円という低コストで球場を建設した。昭和 29 年に高鍋高校は宮崎県ではじめて甲子園出場を果たし、高鍋町民は熱狂した。昭和 30 年に球場開き。その後、高鍋高校野球部は黄金時代を迎える。

#### 7. 南九州化学工業設立準備中に、選挙違反嫌疑を受ける

昭和 27 年、町の発展のため南九州化学工業（株）の設立準備中に選挙違反事件が起こった。政一郎は前年秋の衆院選でトップ当選した相川勝六の選挙事務所長を務めた。選挙違反の嫌疑がもちあがり、政一郎も嫌疑を受ける。政一郎は東京で南九州化学への銀行融資交渉中だった。新聞報道がなされ警察の捜索がなされたが、政一郎は 74 日間も行方がわからなかった。その間、町政を支えたのは助役の尾崎である。政一郎は 12 月に突如姿を現し県警本部に出頭。取調べの結果、嫌疑は晴れ無罪放免となる。拘留所から帰った政一郎は羽織袴<sup>はおりはかま</sup>姿で町長室に現れ、直ちに南九州化学工業（株）の設立総会を開いた。吉田貞吉<sup>よしださだよし</sup>（高鍋町小丸出身。元住友化学社長）が社長に就任し、南九州化学の事業は軌道に乗った。

#### 8. 政一郎、持病が悪化し、78 年の生涯を閉じる

政一郎は町長在任中の昭和 31 年 2 月、突然体の不調を訴え、病床に伏した。翌 32 年 3 月の町議会には病を押して答弁に当たった。その後、県立病院に入院。再起はかなわず、昭和 37 年 1 月 14 日に永眠した。享年 78 歳。惜しまれる死であった。町葬が営まれ、名誉町民に推戴された。（終）

（参考資料：「柿原政一郎」柿原政一郎翁顕彰会発行）

編集委員 石川正樹

# 《 お し ら せ 》

## ★新会員のご紹介 (敬称略)

【宮崎市】 甲斐 真理子 濱渦 純子  
【延岡市】 宮居 文子  
【小林市】 能勢 誠  
【西都市】 黒木 三鶴  
【川南町】 高木 美江

## ★ご寄付をいただきました (敬称略)

【宮崎市】 山崎 正彦 山崎 美智枝  
村田 順子 中武 千佐子  
日高 和子 荒武 真奈美  
岩見 智子 岩見 彩乃  
景山 武純 松尾 フジ子  
藤崎 洋子 石原 信也  
播磨 美保子 酒匂 千昭  
村田 れい子 原野 茂盛  
松下 さおり

【都城市】 川野 博子 朝倉 脩二  
朝倉 信子 本郷 貞雄  
新森 初男

【延岡市】 佐藤 玲子 佐藤 民男  
山崎 きよ子

【西都市】 鬼塚 長幸 今井 美富  
福田 由美 富永 順子  
野村 健一 松岡 章子

【三股町】 小倉 幸利

【高原町】 西村 四男 今西 由美子

【高鍋町】 河原 清子 富田 美智子

【栃木県】 杉尾 和子

【埼玉県】 永野 純生

【東京都】 小林 敦子 富田 速人

林 知尚 坂田 眞樹

末藤 直子 高木 房子

柳田 せい子 末森 満

山岡 雪子 上村 直子

富田 恵子

【神奈川県】 松岡 宏 元田 達徳

元田 和子 篠原 勝

【滋賀県】 奥村 須磨子

【和歌山県】 米本 信篤

【広島県】 田中 浩洋

【福岡県】 田中 真莉子 山崎 数彦

貝島 由香

【長崎県】 増田 康行

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により5月20日までのものとしています。

## 7月号の通信発送作業

7月11日(月) 9時から印刷・製本

12日(火) 9時から製本・発送

コロナ感染状況により中止する場合があります

## ★石井十次の墓地清掃

7月2日(土) 午前7時から墓地清掃を行う予定です。どなたでも参加できます。石井十次の会 0983-32-4612 へお電話を！

●新緑の美しい季節となりました。友愛園方舟館前に植えられている大銀杏の木は、秋の紅葉の時期が綺麗ですが、この新緑もエネルギーが感じられ見事です。

この度、編集委員にも新しいエネルギーとなるお二人の方をお迎えすることが出来ましたので、ご紹介させていただきます。

～ご本人より一言～

☆西村 さと子さん (高原町)

退職後は、学ぶことから遠ざかっていましたが、十次の会を通して目が覚めました。楽しい会議に参加しながら、少しでも役に立ちたいと思います。これから宜しくお願い致します。

☆黒木 三鶴さん (西都市)

新しく委員になりました。よろしくお願ひします。毎日、農業を楽しんでいます。「石井のお父さんありがとう」に我が家が舞台になったこともありご縁を感じます

現在編集委員は、竹之下編集委員長を中心に6人のメンバーで活動しています。

月に1回編集会議に集まり「むつび」発行のための企画・校正また原稿依頼・取材等を行っています。

会員の皆様が「むつび」を楽しみにして読んで下さるように、努力して参ります。

## ★編集後記

巻頭は石井十次の会 橋田和実会長から挨拶をいただきました。

先月号に続き今月も石川編集委員に、柿原政一郎について記事を書いていただきました。石井十次を支えただけでなく、高鍋町に図書館の寄付や町営球場の建設等、政一郎の残した功績の偉大さを知ることが出来ました。 文責 松下 さおり

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1

後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール [yuuaisya-jyujinokai@ki-jo.jp](mailto:yuuaisya-jyujinokai@ki-jo.jp)